

『中日大辞典』について

顧 明 耀

〈西安交通大学城市学院教授／元愛知大学教授〉

この度、愛知大学中日大辞典編纂所が、『中日大辞典』第三版の刊行（2010年2月）と初版刊行以来の長年にわたる改訂作業に対して、平成22年度東亜同文書院記念賞および愛知大学同窓会最優秀奨励賞を受賞されましたことに対し、元愛知大学中日大辞典編纂所の所員、元『中日大辞典』の編纂委員として、私も非常に光栄に思っています。『中日大辞典』は、編纂開始から、すでに半世紀以上の歴史を有しております。私は、おかげさまで2004年から愛知大学中日大辞典編纂所で5年あまり編纂の仕事に携り、大変貴重なその改訂二稿とゲラを読ませていただくことができました。ほんの5年ちょっと、言い換えれば長い歴史の10%、この仕事に多少関わっただけで、『中日大辞典』についてうんぬんしてはいけないことは重々承知しておりますし、私自身そういう資格も力もまったく持ってないこともよくわかっております。ですが、せっかくの機会ですのでこの場をお借りし、私の見た『中日大辞典』、そして私の知った改訂作業について、まとまったものではないのですが、私の感じたことを簡単にお話しさせていただきたいと思えます。

辞書について、その性質を決めること、そのよしあしを評価することは実に困難を極めます。なぜかと言うと、一つには、辞書は量が多くて内容が豊富で、簡単に結論を下せるものではないからです。また、いくら読むための辞書といってもやはり調べるものとしての性質が強いので、最初から最後まで

で読むことは普通あまりせず、辞書の全貌を把握するのは不可能に近いと言っているほど難しいからです。私の言う『中日大辞典』があっているのかどうか自分でも自信が持てません。とにかく、ご参考までに聞いていただければ幸いです。

日本語では、同じ「ジテン」と言っても「字典」「辞典」「事典」がありますが、『中日大辞典』はそのどれにあたるでしょうか。私は、その三つの性質をある程度備えているのではないかと思います。収録された親字数は1万4000字。これは『現代汉语通用字表』（収録字数7000字）の倍で、中国でもっともポピュラーな『新华字典』（収録字数8400字）の約1.6倍、2004年出版『新华大字典』（収録字数1万と100字）の約1.4倍になります。字もたくさん収録されており、説明も非常に丁寧ですから、かなり「字典」に近い性質を持っていると思います。語彙から見れば、『中日大辞典』に収録されている語彙は範囲が非常に広いのです。文語、白話、方言、新語など幅広く豊富に収録されています。当然、私たちが日常使っているものを主体としていますが、私の実感では、祖父の時代の言葉も現代の子供たちの言葉も時々出てきます。また普通の辞典と違って、かなり百科的な語彙、特に中国事情に関する言葉、歴史、地理、自然環境、民俗習慣、政治経済など各分野の言葉がたくさん収録されています。書名としては使えませんが、『中日大辞典』より『中日大ジ典』と呼ぶほうがふさわしいのではないかと、私は思います。

以上は総合的なイメージですが、次にいくつか特に感じたことについてお話しさせていただきたいと思います。

1. 日本人のための辞典

1.1 見出しの作り方から見て

例1) “願”を親字とするところを見てみました。p.618-619

『中日大辞典』の子見出しとして収録された熟語数 36
ほかの辞典と比べてみると、

中国で出版された辞書 4 冊にそれぞれ 19、20、22、24

日本で出版された辞書 4 冊にそれぞれ 18、19、21、23

ほかの辞書には収録されていないものは、

顾不到、顾不得、顾不上、顾得、顾护、顾面子、顾命、顾前不顾后、顾上不顾下、顾委、顾恤、顾一头、顾嘴不顾身

中には文語もあれば、新しくできた略語もあります。もっと多いのは口語です。これらの口語はネイティブの中国人なら、調べなくても理解できるし、使えるものです。

たとえば、“顾一头”の場合、“一头”は端、片一方という意味ですから、「それだけを顧みる」「それだけに気を配る」という意味になります。ネイティブの中国人なら、この言葉の構造から簡単にその意味を把握できますが、外国人の中国語学習者の場合、必ずしもそうとはいえません。

“顾不到”“顾不得”“顾不上”などもそうですが、ネイティブの中国人なら考えずにその意味を理解できるだけでなく、自由自在に使うことができますが、外国人の中国語学習者の方はそうはいかないでしょう。恐らく文法書などを調べないと、すぐに理解して簡単に使える方はそう多くはないと思います。

“顾委”は“顾问委员会”“顾问委员”の略語で、もと指導者で定年退職してから相談役とされる人たち、またこの人たちが組織された委員会のことを指します。この辞典ではこの言葉だけでなく、実例として“中顾委”に至るまで丁寧に説明しています。

例 2) “吃不+～”の部分 p.234

『中日大辞典』の子見出しとして収録された熟語数 17

ほかの辞典と比べてみると、

中国で出版された辞書 4 冊にそれぞれ 6、6、7、12

日本で出版された辞書 4 冊にそれぞれ 6、10、13、15

ほかの辞書には収録されていないものは、

吃不饱、吃不出、吃不得、吃不动、吃不来、吃不了、吃不起、吃不透、

吃不着、吃不准

“吃不饱”の本来の意味は、「食べ物が少なく、おなかいっぱい食べることはできない」「満腹までは食べられない」で、これだけならこのフレーズの構造からも理解できます。しかし、この単語はたびたび違う意味で使われます。『中日大辞典』の意味記述のように「仕事、勉強などの量が少なすぎて満足できない」という意味を表すこともあるのです。これは本来の意味から派生した比喩的な使い方ですから、ネイティブの中国人なら誰でもわかりますが、日本人のための辞書なら、やはりはっきり書いたほうが丁寧でしょう。

日本語の訳から見れば、これらの語の中に「食べられない」という訳語が入ったものが多いのですが、しかし、どういう状況で食べられないか、なぜ食べられないかそれぞれ違います。中国人なら自然に正確に使えますが、日本人の中国語学習者はそうはいかないでしょう。「食べられない」だけ覚えてしまうと間違えやすいので、『中日大辞典』ではかなり多く収録し、詳しく解釈しました。

例3) “打”を親字とするところを見てみました。p.312-324

『中日大辞典』の子見出しとして収録された熟語数 583

ほかの辞典と比べてみると、

中国で出版された辞書4冊にそれぞれ 136、179、214、244

日本で出版された辞書4冊にそれぞれ 155、215、260、304

dā の b の部分だけを見ても、ほかの辞書には収録されていないものは、

打奔儿、打蹦儿、打笔墨官司、打补丁、打不还手、打不过、打不开、打不过揪儿、挽不成纂儿、打不成狐狸闹身臊、打不成米连口袋都丢了

時間の関係で、例3の説明は省略させていただきます。

言語学から見て、あるいは辞書学から見てこういうやり方はあまり科学的とも、合理的ともいえないかもしれませんが、日本人のための実用的な辞書という趣旨から見れば、『中日大辞典』は忠実にその通りに編纂されています。

1.2 記述説明、用例から見て

例1) 親字“面”について p.1184

中国の辞書はふつう“面”“面(麵)”という二つの親字を載せており、一部の日本版辞典も同じようにしています。これが本来の形です。一つの“面”は顔のこと、象形文字から来たもので、もう一つの“面”は“麵”の代用字(略字)で、形声字の声だけ残したものです。けれども、辞典の使用者は、今出てきた漢字はどちらであるかということが判断できない場合が多いでしょう。したがって、『中日大辞典』は一つの親字を二つの部分に分けています。

丁寧に記述説明を付けたばかりではなく、たくさん例(中にことわざや慣用語も含む)も付けてあります。特に、文体的な説明、使用地域についての説明、風俗習慣など文化的な説明はとても興味深いものではないかと思われます。

〔面〕(Ⅰ) 顔：“脸”に比べやや文語的。“面带笑容”などの例も挙げてあります。口語的な表現なら“脸上带着微笑”となるでしょう。

(Ⅱ) 麵類(総称)：多く南方では“～”北方では“～条”という。“迎客～”客があったとき最初の食事に出す麵：長く滞在することを希望する意味。

例2) “三大件”について p.1472

日本で出版された辞書において、この言葉の意味解釈は次のようなものがあります。

辞典A 〈俗〉三種の神器。

辞典B テレビ、冷蔵庫、洗濯機といった家庭における三種の神器。

辞典C 三種の神器：中国の家庭生活の3種の必需アイテム。*1960年代から70年代の“三大件”とは腕時計、自転車、ミシン、80年代はカラーテレビ、冷蔵庫、洗濯機であった。現在ではこうした言い方はあまりされない。

辞典D (その時代にもてはやされ、羨望された家庭用品の)三種の神

器（1970年代前半は腕時計、ミシン、自転車。80年代後半はカラーテレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫。）

どれも間違っているはいませんが、中国の辞典で調べてみると、異なるところが出てきました。

『現代汉语规范词典』（第二版）p.1129 在我国民间，指一个时期内能显示出较高生活水平的三件家庭用品。不同时期的“三大件”所指不同。如20世纪70年代指手表、缝纫机、自行车；80年代指冰箱、彩电、收录机。

『应用汉语词典』p.1077 三件家庭耐用消费品的合称。不同的年代“三大件”所指的内容也不同，如六七十年代“三大件”指手表、自行车、缝纫机，八十年代指彩色电视机、电冰箱、洗衣机等。这一说法现在用得越来越少了，因为家庭中所谓“大件”已远远多于三样了。

『现代汉语词典』『新华汉语词典』は、この言葉は収録していません。

どれが本当でどれが間違っているか、なかなか判断できないものですから、『中日大辞典』では次のように解釈しています。

①三種の神器：④5、60年代における三つの家庭用耐久商品。腕時計、ミシン、自転車を指す。時代とともに変化し、⑤7、80年代は冷蔵庫、カラーテレビ、ラジカセまたは洗濯機。⑥90年代以降はマイホーム、マイカー、パソコンまたは携帯電話、エアコンなどのうちの三つ（様々な説がある）。新しいものを“新三(大)件”、以前のものを“老三(大)件”と呼ぶ。②(略) ③(略)

例3) “两面”について p.1066

中国の辞書はたいてい三つの意味項目に分けて説明してあります。日本版の辞書もほとんど同じようにしています。たとえば、

辞典A ①両面、表と裏。(例略) ②両側。二つの方面。(例略) ③事物の相対する二面。(例略)

辞典B ①表と裏。(例略) ②両方。(例略) ③(物事の相反する)二つの面。(例略)

もちろんこれは間違っています。一方『中日大辞典』は五つの意味項目に分けて説明をしています。

- ①表と裏。両面。(例略) ②二つの方面。両側。(例略) ③物事の相反する二面。(例略) ④双方。(例略) ⑤〈喩〉裏表のあること。二つの姿勢を使い分けるずるい態度。(例略)

意味項目の視点から、これは厳密で、科学的で、素晴らしい分け方であるとはいえないかもしれません。けれども、一目でわかるように工夫して、日本人学習者の必要性を考えた上で書いたのではないかと思います。

例4) “顾命”について

これは先ほど挙げた例の中に出てきたものですが、二つの漢字を見ても意味はわかると思います。「命を顧みる」ですから「生命を惜しむ」という意味になります。これは現代中国語でわりとよく使われているもので、その否定形はもっとよく使われています。そのため、『中日大辞典』では“不顾命地干”という例文も付けています。ほかに“奋不顾命”“顾钱不顾命”などの例もこの類の用法です。

一方、古代ではこの言葉は違う意味を持っています。『辞源』(广东广西湖南河南辞源修订组、商务印书馆编辑部编1988.7. 商务印书馆 合订本 p.1851)によれば、次のような意味記述が書いてあります。

顾命：书篇名，取临终遗命之意。书顾命序：“成王将崩，命召公毕公率诸侯相康王，曰顾命。”疏：“言临将死去，回顾而为语也。”后因称天子之遗诏为顾命。

つまり“顾命”は「皇帝の遺言」「天子が死に臨むとき詔勅を残すこと、またその詔勅」という意味で使われています。現在では当然この意味でこの言葉は使いません。現代中国語語彙を主体とする『中日大辞典』では、あまり使わない意味を省くことが、辞典使用者の必要性を考えた編纂者の意図ではないかと思います。

以上の例を通してわかっていただけることは、『中日大辞典』は、日本人

学習者が必要なものならば、詳しく、丁寧に説明していますが、そうでない場合は省略するという方針を採っています。

1.3 付録から見て

『日中大辞典』の付録は次の13にもものぼります。

漢語ピン音字母、トーマス・ウェード式ローマ字、注音字母対照表

部首名称一覧表

省・自治区・直轄市・特別行政区およびその別称

少数民族名一覧表

重要記念日、二十四節気、旧暦主要節句一覧表

中国歴史略表

親族関係名称と関係図

北京伝統住宅の配置図解

中国政治機構一覧表

国名、首都名一覧表

度量衡の単位名称

化学元素表

中国略図

内容から見れば、語学以外に中国事情、歴史、地理、民族習慣など、ないし科学技術関係のものもあり、かなり充実しています。

そのほかに「日本語索引」があります。これさえあれば、かなりの程度で「日中大辞典」としても使えると思います。

例1) 携帯電話 p.1569j p.1986g

1569ページを調べたら、shōu (手) のページになります。shōu の次に j が来る単語の中に“手机”の言葉が見えてきました。

手机 shōujī 携帯電話：“手持移动电话机”の略。“〈口〉大哥大”とも

いった。“打～”同前をかける。“～电视”同前のテレビ受信機能。

“～挂饰”“～吊饰”同前のストラップ。“～上网”同前によるインター

ネット利用。

同じように1986ページを調べてみたら、“移動”という言葉が出てきて、その中の用例に“～電話”“手机”が書いてあって、「携帯電話」という記述が見えてきました。

2. 学習者にとって非常に使いやすくてためになる辞典

2.1 学習上の難点について

中国語を習うとき、どこが一番難しいでしょうか。たぶん文法関係を表すもの、いわゆる虚詞でしょう。

例1) “得”について p.374-375

言葉の用法、意味などについての説明は非常に詳しく、丁寧です。“得”の①の解説を見てみましょう。

行為・動作の結果・方向・傾向を示す複合動詞の間に挿入されて可能の意を表す：“不 bu”を挿入した不可能の形と対義にて用いられる。

まず、ここでは接続関係と意味をはっきり書いてあります。特に否定の場合なら、入れた“不”は軽声で言うべきということも説明してあって、大変親切だと思います。それから、例をいくつか挙げてあります。

“说出来” 言い出す。

“说～出来” 言い出せる。

“说不出来” 言い出せない。

三者を対応させて並べてありますので、三者がどういう関係か非常にわかりやすくなっています。

なお、この“得”という親漢字の下に見出しとして出された熟語は27項目もあります。編集方針によりますが、ほかの日本で出版された中日辞典と比べてみたらどれよりも多いことは間違いありません。

日本で出版された辞書5冊にそれぞれ 0、1、1、6、20

たとえば先ほどの“得”の1

一得出来 -dechūlái 動詞の後に置いて、内から外に出たり、事物を完成したり発見識別することができることを表す。“擠～”しぼり出すことができる。“作～”作りあげることができる。“闻～”かぎわけられる。“看～”見分けがつく。

少し重複している部分もありますけれども、初心者、初級中国語を習う方にとっては便利だと思います。

その次に難しいところは動詞関係の補語などでしょう。

例2) “下”について p.1809

ほかの用法には触れずに、動詞の補語の用法だけ見てみましょう。

①上から下への動作が完了し、その結果、安定・持続・固定し、動揺や変更がないことを表す。“～”は“妥”“好”に置き換えることもでき、意味もいっそう明瞭になる。

この説明自身も非常にわかりやすいですが、それだけではなくて、11の例も挙げてあります。そのなかのいくつかの例は日本語訳のほかに、解釈も付けてあります。

“买～” 買っておく：代金を支払い、目的物が自己の所有下に置かれたことを表す。“租～房子” 家を借りる：家を借りる手続きも完了し、変更がありえないことを表す。“菜已经叫～了，可还没送来” 料理は注文済みだが、まだ持ってこない：予約して安定したことを表す。

②動詞と“～”の間に“得”を入れれば可能を表し、“不”を入れれば不可能を表す。“坐得～” 座れる：座るに十分な場所がある。“搁不～” (置くだけの場所がなくて、狭くて) 置けない。“租不～房子” (何か条件がそろわなくて) 家を借りられない。

多くの辞書は、例を挙げて日本語訳を付けたただけですが、『中日大辞典』がこのように扱うのは、十分に学習者の需要を考えた結果だと思います。

また、実例は挙げませんが、ぱらぱらと捲ってもわかっていただけるように、例文の中の難しい漢字に対して、全部ピンインを付けてあります。これ

はもちろん学習者の必要性を考えた結果でしょう。

2.2 間違えやすいところについて

中国語を教えるとき、声調は難しいとか、変調や軽声はもっとも難しいなどの声がよく聞かれます。中国語会話を教えたときも感じていましたが、日本人がよく間違えるところの一つに声調、特に変調や軽声があります。これもネイティブの中国人は覚えなくてもできるものですから、中国人のための辞書ならまったくこれらのことを気にする必要はありません。しかしだからといって、日本人のための辞書がどれもみな詳しく説明されているとは限りません。この点について『中日大辞典』はよく工夫して記述されていると思います。

例1) “一” について p.1963

①単用・句の末尾・語句の中のまとまった数字の最後に来たときには yī と発音され、第4声の前では yí、第1・2・3声の前では yì と発音される。すなわち、“一 yī” “唯一 wéiyī” “一百一 yībǎiyī” “一一得一 yīyīdéyī” “念一课 niànyíkè” “一半 yíban” “一个 yíge” “一天 yìtiān” “一年 yìnián” “一点 yìdiǎn” となる。ただし、“十一月 shíyīyuè” “一十一 yīshíyī” となる。

このようにとても丁寧に説明してあります。

先ほど申し上げました虚詞も日本人にとって難しいところのようです。介詞の例を一つ見てみましょう。“把” 構文は中国語学習者のよく間違えるところの一つでしょう。『中日大辞典』はこれについてどのように説明しているのでしょうか。

例2) “把” について p.28-29

①…を (…する) : 対象に何らかの影響を与える。対象 (目的語) はふつう自明のもので、動詞の前か後に結果や方式・場所などを表す語が必

要となる。

“～信交”手紙は渡した。“～桌子擦一擦”テーブルを拭いてください。“我～这本书看完了”私はこの本を読み終えた。“她没～信寄出去”彼女は手紙を出さなかった。“～话说绝”話を打ち切った。

日本人学習者が“把”構文を勉強するときよく間違えるところは、二つあります。一つは対象を不定のものにしてしまうことで、もう一つは動詞だけで終わってしまうことです。「人を叱る」「训人」は言えるのですが、“把人训”“把人训了一顿”は言えません。なぜかというと、“人”は、いったい誰かわからないからです。しかし“把他训了一顿”は言えます。“他”なら自分の彼氏、あるいはある特定の人ということが考えられるからです。このように間違えやすいところについて、詳しく説明しているのは『中日大辞典』の大きな特徴です。

②“有”“在”など存在・所属を表す動詞、“愛”“知道”“看见”など心理活動・認識・受動的知覚を表す動詞、“上”“进”など場所を目的語にとる動詞、“遇到”など無意図的な動詞はふつう“把”で目的語を前置できない。但し“忘”“丢”や補語を伴ったものには可能なものがある。“差点儿～你给忘了”君のことを忘れるところだった。“～钢笔丢了”ペンをなくした。“可～你盼回来了”やっと帰ってきてくれたね。

“把”構文を習った中国語学習者は、自分で練習するとき、もしかしたら何でも“把”で表現するかもしれませんが、“把”で表現しないこともある、という初心者への注意にもなるでしょう。

“我有日语书”はいえませんが“我把日语书有”“我把日语书有了”とはいえません。“我爱她”はいえませんが“我把她爱”“我把她爱了”もいけません。ですが、“我训她”“我把她训了”“我把她训了一顿”“我把她训哭了”はいえます。

③…について…する：動詞にさらに目的語がある場合。“～猪卖了两只”（何匹かいるうちから）ブタを2匹売った。“～两只猪卖了”（2匹しかないのを）2匹とも売った。

“把猪卖了两只”と“把两只猪卖了”のどこが違うかということ、“两只”の

位置だけです。しかし、位置が違ふと意味も違ふてきます。これも間違えやすいので、書き加えました。

2.3 実用的なものについて

言葉では、理論上の使い方と生活の中での実際の用法とは違ふことがしばしばあります。ことに発音、読み方の面ではもっと多いようです。辞書はどれを基準にするか、結構ややこしいことでしょう。おそらく学習者はまず実際の使い方を覚えたいのではないかと思います。しかし、理論的なものをまったく知らないのは、妥当な語学の勉強法とはいえないかも知れません。この『中日大辞典』は、理論的なものを尊重する立場に立たなければならない一方、生活上の実際を無視しない姿勢をとりたい、という非常に難しい立場で編纂されていると、私は思います。

例1) “的”、“打的”について

この“的”は“目的”の“的”でもなく、「わたしの」のような所属を表す“的”でもありません。その後に出てきた“打的”によってもわかるように、「タクシー」の意味を表す“的”です。この“的”の発音は第何声でしょうか。中国でもっとも権威的な辞書『現代汉语词典』（中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2005.6. 第五版 商务印书馆 p. 291, p. 244）では次のように書いてあります。

的士 dīshì (方) 出租小汽车。

打的 dǎ // dí (口) 打车。(例略)

中国でかなり影響があり高く評価されている『应用汉语词典』（商务印书馆辞书研究中心编 2000.1. 第一版 商务印书馆 p. 259, p. 216）では次のようになっています。

的哥 dígē (口) 俗称男性出租汽车司机。

的士 dīshì (粤语) 出租小汽车。

打的 dǎdí 出钱让出租小汽车为自己服务。

中国語の規範、いわば標準中国語を追求しようとする辞書、『現代汉语規

范词典』(李行健主编 2004.1. 第一版 外语教学与研究出版社、2010.5. 第二版 语文出版社)では、タクシーのこと、タクシーを利用することは、どのように扱っているのか調べてみました。

第一版 “的” (p.284)

的哥 dígē

的姐 dījiě

的士 dīshi

一方、“打”の親漢字の下に子見出しとして出されたものですが、“的”は一声となります。

打的 dǎdī (p.237)

第二版 (2010.5) “的” (p.284)

的哥 dígē

的姐 dījiě

的士 dīshi

要するに第一版とまったく同じですが、使用頻度の非常に高い“打的”(収録すれば p.237にあるはず)という言葉は消されました。

語彙の収録は辞書の編纂方針によって違うと思いますが、では、なぜこの“的”の声調が違うのか、いったいどれが本当か、日本人学習者はどれを覚えたらよいのか、などのことを、『中日大辞典』は考えなければなりません。『中日大辞典』の処理は次の通りです。

親漢字“的” dīの下に子見出しは (p.382)

的哥 dīgē, dígē

的姐 dījiě, dījiě

的嫂 dīsǎo, dísǎo

的士 dīshi, dīshi

“打”の親漢字の下に子見出しとしては (p.315)

打的 dǎdī, dādī

さきほどの中国版の辞典を比べてわかることは、二点あります。

一つは親漢字“的” dīの下に熟語の見出しとして“的嫂” dīsǎo, dísǎoと

いう項目が入っています。もう一つはタクシーの意味の“的”と“打的”は二つの読み方が並べてあります。

例2) “七”について p.1333

(意味記述は略) 第4声の前に来たときは第2声に発音することもある。

現在、中国語を習うとき、この字の変調のことに全く触れませんが、以前は、辞典や教科書にはっきりとこの変調のことが書かれていました。たとえば、『現代汉语词典』(中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 1983. 1. 第二版 商务印书馆 p.892) では次のように書いてあります。

“七”字单用或在一词一句末尾或在阴平、阳平、上声字前念阴平，如：“十七、五七、一七得七、七夕、七年、七两”；在去声字前念阳平，如“七月、七位”。

つまり、後ろに来る声調によって変調をするのは“一”と“不”だけではありません。“七”も(“八”も)変調していたのです。“七”“八”の変調はここ十数年来、しない人が増えてきましたから、辞典(たとえば『現代汉语词典(第五版)』、『现代汉语规范词典』)も教科書(皆さんが使っている教科書)もこのことを書かないことになっています。ラジオやテレビ放送も変調しない方針を採っているかもしれませんが、北京の人は今でも話すときに変調する人が多いようです。

ここでは二つの例しか挙げていませんが、これらの例はどういうことを表しているかということ、理論的なものと生活上の実際、両方ともに重視する裏づけとなっています。これは『中日大辞典』の編纂方針の証明でもあるでしょう。

3. 第三版のための改訂作業

辞書は生きているものという言い方があります。毎日のように、一部の言葉が生まれてきて、一部の言葉が死んでしまうのです。長く使われてきた言

葉も、意味やニュアンス、使い方が変わってくることが多いです。海外に一年滞在し、帰国後にテレビを見ると、たまにわからない言葉や、わからなくはないが今まで使っていなかった言葉が出てくることがあります。逆に、年輩の方の話には、普段使わない言葉が含まれることもあります。これはどの国の言葉についても同じことがいえます。

日本語の例を二、三挙げさせていただきます。

例1) 「造反有理」

「造反有理」という言葉は昔よく使われていました。調べてみたら、これは1969年(昭和44年)の流行語に選ばれたものです。実は、この言葉は中国から来たもので、1966年に始まったプロ文革(文化大革命)のスローガンの一つです。当時中国では、毎日毎日、何回もこの言葉を使っていました。その影響によるものでしょうか、日本でも1968年ごろ、流行語になりました。今なら、若い方はもちろん、ほとんどの方はこの言葉を使わないでしょう。中国でも同じです。

例2) 「婚活」

「婚活」という言葉が今使われていますね。その歴史を考えてみたら、まだ3年ちょっとで4歳にはなっていません。これは「就活」という言葉に倣って作られたそうです。

例3) 「初老」

辞書改訂のことを研究するために、『新明解国語辞典』とその前身『明解国語辞典』で「初老」についての意味記述を調べてみました。

その結果は次のようです。

『明解国語辞典』(改訂新装版1952.4.5. p. 414) 40歳

『新明解国語辞典』(1972.4.24. p. 550)、『新明解国語辞典』(第二版1974. 11.10. p. 550) 肉体的な盛りを過ぎ、そろそろ体の各部に気をつける必要が感じられる時期。〔もと、40歳の異称。現在は普通に50歳前後

を指す]

『新明解国語辞典』(第三版 1981.2.1. p.570) 肉体的な盛りを過ぎ、そろそろ体の各部に気をつける必要が感じられる時期。[もと、40歳の異称。現在は普通に60歳前後を指す]

『新明解国語辞典』(第四版 1989.12.10. p.626)、『新明解国語辞典』(第五版1997.11.3. p.692)、『新明解国語辞典』(第六版2005.1.10. p.734) 肉体的な盛りを過ぎ、そろそろ体の各部に気をつける必要が感じられるおおよその時期。[もと、40歳の異称。現在は普通に60歳前後を指す]

以上例を3つしか挙げていませんが、一つは以前の流行語で、何年も経たないうちにすでに使われなくなった例、一つは新しく作られた言葉の例、もう一つは、言葉はその言葉ですが、時代によってその意味が変わってくる例です。言葉自身はこんなに変わっているものですから、時代とともに辞書の改訂はどうしても必要だと思います。先ほどの例『新明解国語辞典』も何年も経つと改定されますね。ほかの辞書も同様です。『岩波国語辞典』は1963年4月に第一版発行、2009年11月に第七版を発行しました。『三省堂国語辞典』は第六版、『広辞苑』も第六版が出ています。『中日大辞典』の改定もこれらと同じように非常に必要だと思います。2010年発行の『中日大辞典』第三版は、初版、増訂版、増訂第二版と比べるとずいぶん変化がありました。

3.1 収録語の選択

増訂第二版を基礎にして、たくさんの語を削除して、またたくさんの語を追加しました。この作業はどのように行ったのでしょうか。

辞書見出し項目の収録については、作業方法はおおよそ二種類あります。一つはより主観的なやり方、もう一つはより客観的なやり方です。前者は、編纂者の判定によるもので、後者は統計資料、使用頻度などによるものです。私の認識では『中日大辞典』はどちらにもよらずに、二つの方法を取り合わせて、できるだけ合理的にこの作業を進めてきました。

『中日大辞典』の場合は、一方で新しい新聞記事の用語を調べてカードを

作ったり、インターネットを利用して言葉の出現回数を見たりして作業しましたが、これだけでは削除や追加は行いません。これらのものを基礎として、複数の専門家の判断で最終的に決定しました。取捨の基準は、やはり日本人読者の必要性を踏まえて、現在、中国人とコミュニケーションしたり中国関係の情報を得るために、全くあるいはほとんど使わないものを削除すると同時に、現在広く使われている語彙を中心に、ある程度使われている歴史的な語彙、近代の語彙を適切に取り入れました。

例1)

『中日大辞典』増訂第二版 (p.1511-1512) 親漢字「秋」の下に見出しは74項目ですが、第三版 (p.1407-1408) 親漢字「秋」の下に見出しは75項目です。それでは一つだけ増やしたのではないかと思われませんが、そうではありません。増訂第二版の見出しの中の18項目は第三版には入っていません。言い換えれば18項目をカットして、新しく19項目を入れたということです。削除されたものには、今あまり使わない俗語“秋见天儿”なども入っていて、その時代だけ使っていた“秋明油田”(ロシアの石油産地、1961年発見、1981年ごろ頂点に達して、その後生産量は逐年減少した)なども入っています。新しく入れた言葉は“秋交会”“秋裤”“秋熟”“秋游”“秋种”などで、どれも現代中国語ではよく使われているものです。

例2)

『中日大辞典』増訂第二版 (p.1638-1639) 親漢字「申」の下に見出しは39項目ですが、第三版 (p.1522) 親漢字「申」の下に見出しは36項目です。削除されたのは“申秉”“申敬”“申时”“申守”“申准”など、現在ほとんど使われないもので、一般の中国人にもわからない古い言葉です。また、新しく入れたものには、“申办”(企画実施などを申請する)、“申奥”(オリンピック招致を申請する)、“申购”(公募売り出しの株式・土地・物品などの購入を申し込む)など、現在の中国社会情勢に深くかかわっているものです。

3.2 意味記述について

『中日大辞典』（増訂第二版）と比べて、収録された語彙が異なるだけではありません。意味記述の面でもかなり変わってきました。

例1)

世界（増訂第二版 p.1682）①世界。“～之大，无奇不有”世界は大きいからどんな不思議な事だってある。②☐宇宙、世界。“极乐～”極楽世界。③世の中：社会の気風・情勢を指す。“现在是什么～，还允许你不讲理”今はどんな世の中だと思ってるんだ。そんな理不尽が通ると思うか。“花花～”盛り場。④領域、活動範囲。“主观～”主観の世界。“儿童～”子供の世界。

世界（第三版 p.1558）①世界。“～杯”☒ワールドカップ。“～博览会”“世博会”万国博覧会。“～观”“宇宙观”世界観。“～锦标赛”“世锦赛”☒世界選手権大会。“～贸易组织”“世贸”世界貿易機関、WTO。“～卫生组织”世界保健機関、WHO。“～小姐”“世姐”ミスユニバース。“～遗产”世界遺産。“～银行”“世行”世界銀行。“～之最”記録の世界一。“～主义”コスモポリタニズム。“～之大，无奇不有”世界は大きいからどんな不思議な事だってある。②☒（仏教で）同じ日・月の照らす空間と時間。“极乐～”極楽世界。③世の中：社会の気風・情勢を指す。“现在是什么～，还允许你不讲理”今はどんな世の中だと思ってるんだ。そんな理不尽が通ると思うか。“花花～”人の世。④領域、活動範囲。“主观～”主観の世界。“儿童～”子供の世界。

両者を比べてみれば、違うところは三つあると思います。まず、第一の意味項目に、例をたくさん増加しました。どれも現代社会、現代中国にとって重要な言葉でしょう。それから、第二の意味項目で見られるのは簡単な訳語ではなくて、意味解釈にしました。第三の意味項目では“花花世界”の訳は「盛り場」を「人の世」にしました。「盛り場」は「町中の、いつも多くの人が集まってにぎやかな場所」（『岩波国語辞典』第七版2009.11. p.552）となり、具体的過ぎて、やはり三版の訳が適当だと思えます。

例2)

小姐（増訂第二版 p.2041）①お嬢さま：旧時、使用人が主人の娘に対する称。また広く他人の娘に対する尊称。②…嬢、ミス…：多く外国人も未婚の女性に用いる。③旧時、職業婦人の呼称に用いた。“接线～”交換嬢。“广播～”女性アナウンサー。“空中～”スチュワーデス。

小姐（第三版 p.1848）①旧お嬢さま：使用人の主人の娘に対する称。②お嬢さん：広く若い女性や未婚の女性に用いる。“世界～”“世姐”ミスユニバース。“李～”りーさん、ミスリー。③サービス業の若い女性の呼称。“接线～”交換嬢。“广播～”女性アナウンサー。“空中～”女性客室乗務員。フライトアテンダント。④風俗接客業の若い女性。“她做～已经3年了”彼女は水商売を3年もやっている。“～費”サービス嬢・ホステスのチップ。

両者を比べてみたら、第三版は中国の今の社会実情にそって書いたことがわかっていただけるでしょう。“她是个小姐”と言ったら、第二版によれば、「彼女はお嬢様だ」ですが、第三版によれば「彼女は風俗嬢だ」ということになります。間違えたら大変失礼なことです。

3.3 用例について

辞書の用例はおよそ三種類あると思います。一つ目は引用例、たいてい代表的な文学作品や、影響ある学術書から引用します。二つ目は作例、編纂者が作った例です。引用例の場合は、本来のストーリーや場面を離れているため、例文の理解が少し難しい場合も考えられます。作例の場合は、その例文が妥当か、不自然ではないかと疑われることがあります。ですから、三つ目のものができました。それは改作例と言って、引用例あるいはほかの辞書例、他人の作った例を、ある程度直したものです。しかし直して改善される場合もあれば、改悪される可能性もないとはいえません。どの方法をとっても一長一短ですから慎重に扱わなければなりません。

第三版の改訂では、例文についてもかなり力を入れてきました。引用例に

ついては、原則的に初版に準じます。なぜ増訂第二版に準じないのか、と聞かれるかもしれません。私の感覚では第二版は大半が文化大革命の最中に改訂したものですから、当時の例文は考え方も表現法も極左あるいはそれに近いものが多かったでしょう。引用例はそのまま使うのではなくて、一つ一つ再確認しました。『三国演義』『水滸伝』『紅樓夢』などの古典名著からの引用は第二版まで書名しかありませんでしたが、それを確認してから、第何回かというものはっきり書き加えました。たとえば、

草上飞（増訂第二版 p.195）“即命大公子叫了一个～，同萧伯泉到扬州去。”（儒）

草上飞（第三版 p.178）“即命大公子叫了一个～，同萧伯泉到扬州去。”（儒23）

現代中国語を主体とした辞書ですので新聞や雑誌からの引用はもっと多く含まれます。これらの引用例、初版、第二版の作例、改作例は全て、複数の中国人からの確認を何度もとりました。

3.4 並べ方について

初版、第二版と比べて、見出しの並べ方は大きく変わりました。今までは複数の読み方を持っている漢字、いわゆる多音字は、全部一箇所に集中して意味解釈していましたが、第三版はそれぞれのアルファベットの順に置かれました。たとえば、“乐（樂）”という親漢字とその下の見出しを見てみましょう。

増訂第二版（p.1108-1109）では、乐（樂）について、lè, yuè, yàoとまず三つの読み方の漢字についての解釈があります。

それから、lèをはじめとする熟語小見出し。たとえば、“乐不思蜀”“乐极生悲”などなど。その後、yuèをはじめとする熟語見出しです。“乐队”“乐府”“乐曲”“乐团”などはこちらに置かれています。言い換えれば、“乐队”という言葉を読めるとしても、調べてみるとyuèのところには載っていないのです。万が一、“乐（樂）”のほかの読みがわからなければ、調べるのに非常に手間がかかるでしょう。

第三版は、lèと読む親漢字およびこれをはじめとする熟語見出しはlèのところ (p.1026-1027) に、yuèと読む親漢字およびこれをはじめとする熟語見出しはyuèのところ (p.2070-2071) に並べて、現代中国語でほとんど使われない yào は削除しました。

実用の視点から見て前より調べやすくなりました。辞書学の角度から見ても、読み方によって並べると言うやり方はもっと徹底的になりました。

私は日本語と中国語との対照言語学、そして辞典学について勉強してきたものですから、よく辞書のことについて聞かれます。たとえば、「紙の辞書と電子辞書、どちらがよいでしょう」「辞書を買いたいのですが、この辞書はどうですか、A辞書とほかの辞書、どれがよいですか」などです。なかなか答えにくい質問ばかりですが、簡単に結論を申しますと、「紙の辞書と電子辞書、A辞書とほかの辞書、どれも一長一短」です。

自分の使用目的をまずはっきりさせ、そして各辞書の特徴をよく理解した上で決めてください。電子辞書を持っていても、紙の辞書は少なくとも2冊くらいはあったほうがよいのではないのでしょうか。

全く個人の意見ですから間違っているところも多いかと思います。多少ご参考になれば幸いです。

本日は長時間のご清聴ありがとうございました。

付記：本稿は、2011年4月9日に行われた東亜同文書院記念賞・愛知大学同窓会最優秀奨励賞受賞記念講演会の講演内容を整理したものです。